

様式 1

研究報告書（平成 26 年度）

提出者 若松 大祐

提出年月日 2015 年 3 月 31 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 現代台湾史像の再検討：中国大陸や東南アジアを念頭に置いた、政府主導の人権概念の時系列的な展開に即して

英文

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

本研究は、現代台湾史像を見直して、新たな歴史像を提起することを目的としている。1945 年から現在にいたる台湾史に関し、従来は往々にして、善悪二元論的に二つの主体を想定して歴史像が形成されてきた。これに対して、本研究は現代台湾という時空に生きる人々を一つの主体として想定し、新たな歴史像を提起しようというものである。そのために、一つの歴史的主体を想定しやすい概念として、人権という概念、とりわけ政府主導の人権概念に注目した。

そもそも現代台湾において人権というと、在野から人権の保障を求める声があり、従来はこうした下から上への人権概念に注意が集まった。1949 年から 1987 年まで台湾では戒厳令が敷かれており、従って政府は民主主義を否定し、人権を蹂躪する存在になった。

ところが、現代台湾史上、中央政府としての機能を持つ中華民国政府は一貫して人権擁護を主張しており、こうした雰囲気は 1960 年代末から次第に高まってくる。ここでの人権は上から下へ広がろうとするものであり、この動きには同時代の内外政が背景として密接に関係している。つまり、従来の研究が歴史的主体に想定していた在野と政府は、いずれも人権擁護を主張しているのであった。そこで、両者の主張に共通点を見出し、それを時系列的にたどるならば、私たちは一つの歴史的主体を想定し、ひとまとまりの歴史像を所持できるだろう。

【研究業績】学会報告・論文など

<<学術論文>> 若松大祐「現代台湾史における泰緬孤軍イメージ：本土化の不徹底を示す一事例」、『社会システム研究』29 号（草津市：立命館大学社会システム研究所、2014 年 9 月）、pp.59-94。

<<資料編纂>> 鍾淑敏、陳姪媛、曾文亮、曾品滄、賀安娟、費德廉、若松大祐（編）『台湾史研究文献類目 2013 年度』台北：中央研究院台湾史研究所、2014 年 12 月。

<<研究会報告>> 若松大祐「現代台湾において国家が主導した人権概念の歩み」、『インドネシア華人の移動と台湾』（「20 世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動」(24310183)基盤研究(B)、代表者：北村由美・京都大学・准教授) 滋賀県立大学・人間文化学部 D0 棟 2 階 202 会議室、2014 年 7 月 6 日。

**【成果の概要】**（800字程度）

前述のように、現代台湾史像の再検討という上記目的に接近するために、本研究では政府主導の人権概念の時系列的な展開を切り口にした。そうした時系列的展開を跡付けるために、政府主導の人権概念の中でも、中国大陸や東南アジアに関する人権概念に着目して研究を進めてゆくことを、初歩的に提起し発表したのが、上記【研究業績】の<<研究会報告>>である。

また、私には上記【研究業績】の<<学術論文>>で示したような問題意識を、つまり現代台湾史上で不可思議に感じる現象への疑問を、有志が持ち寄って互いにざっくばらんに議論したいという思いがあった。幸い、本ユニットを統括する学際融合教育研究推進センターの支援を受けて、「研究大学強化促進事業<百家争鳴>プログラム 2014 京都大学 分野横断プラットフォーム構築企画」の一環として、2014年11月30日には「台湾理解を見直すためのワークショップ」を京都大学吉田泉殿で開催できた。これは歴史像のみならず、先駆者、概説書、エスニック関係、公式見解、対外関係を題材にして台湾理解全般を見直す内容である。このワークショップには16名が参加し、台北駐大阪経済文化弁事処（台湾の駐大阪領事館に相当）の支援も得ている。

本ユニットでは、基礎知識を修得し共有するために、内藤湖南『支那史学史』の会読を主催した。頻度は毎月一回で、毎回3-4名の参加者があった。また単発の読書会として、龍應台『台湾海峡一九四九』（原題：大江大海）を読みそして語る会（2014年11月14日）も実施した。いずれの集まりでも、新たな知識だけでなく新たな出会いがあり、今後の研究を展開する上で大きな刺激になった。その最たるものは、The 3rd Global Summit of Filipino Diasporas（Commission on Filipino Overseas 在外フィリピン人委員会主催、於マニラホテル）へ参加したことである。本ユニットの関係者が参加する際に、私も同行させていただいた。本ユニットへ所属していなければ、このイベントへ参加することはなかっただろうから、改めて本ユニットに感謝申し上げたい。

**【通信欄】**